







# 平成23年度 県教育長要望事項

## I 子どもの安全・安心に関する要望

### 1 いじめと不登校に関する問題と課題

- ①全国状況との比較及び傾向について具体的に示すとともに、本県での校種別のいじめ・不登校者の現状と、平成19年度から平成21年度の内容の細分化についてもお聞かせ願いたい。また、いじめが起こらないようにするための取り組みや、過去に起こった問題や対処方法を具体的な例をあげて教えていただきたい。
- ②いじめ問題に対して、学校と家庭、教育委員会が連携を図り、子どもたちのサインを見逃さないような体制づくりを要望する。

### 2 各種疾病・感染症の危機管理体制や対応策の充実

- ①学校におけるインフルエンザ、食中毒等の衛生管理対策について伺いたい。
- ②麻しん接種については、学校と市町村の連携を図り、子どもたちへの説明や保護者への周知を要望する。

### 3 防災・環境整備の促進

- ①徳島県内の小・中学校の耐震診断結果をもとに、学校施設等の耐震・改修整備を継続して行うように市町村に対して支援いただくよう要望する。
- ②地震や津波等、自然災害に対する防災・減災教育をどのような観点で意識啓発し、推進するのか伺いたい。
- ③学校避難所運営マニュアルの（被災者対策）早期策定を要望する。
- ④学校と地域（自治会や自主防災会）と連携した防災・減災の協力体制を図り、被災時の対応策の早期策定を要望する。
- ⑤沿岸部の小中学校の津波対策として、避難訓練の見直しや、高所避難場所の設置を要望する。

### 4 児童・生徒の通学の安全確保と不審者対策

- ①児童・生徒の通学の安全を確保するために、どのような取り組みをしているのか伺いたい。
- ②不審者から児童・生徒を守るために、学校・家庭・関係機関が不審者情報を共有し、被害の未然防止を図ることを要望する。
- ③青少年健全育成センター等の活動を支援することを要望する。

### 5 安全な食材の供給と食育指導

次世代を担うわたしたち徳島県の子どもたちの食の安全・品質の確保は健康や発育上、最大の問題と考えているところである。給食については、各市町村により、センター方式・単独校方式・デリバリー方式で運用されているが、徳島県として、安全な食材の供給に関する情報を素早く提供し、給食への食の安全が確保できるよう要望する。

- ①学校給食の安全な食材の供給と情報提供を要望する。
- ②食育指導・地産地消についてもさらなる指導助言を要望する。

## II 子どもの学力向上に関する要望

### 1 教員の資質向上と適正配置、学級体制の充実

- ①教員の加配の枠を増やし、柔軟な加配措置及び保護者・地域の理解が得られる充実した教員配置ができるよう予算措置を要望する。
- ②教員がゆとりを持って一人ひとりの子どもと向き合う時間をできるだけ確保できるよう会議出張の精選、事務処理の効率化等の対策を講じるよう要望する。
- ③中学校においては、専科の適切な教員配置を要望する。

### 2 教育費の確保・拡充

義務教育における全額国庫負担の完全実施を引き続き国に強く働きかけていただきたい。

教育予算については未来の日本を担う子どもたちへの、また国の根幹をなす経費であります。また、いずれの市町村も厳しい財政状況にありますが、教育費予算については更なる拡充につとめ、一般財源化している国からの教材費・図書費等の使途についても検証していただき、各市町村教育委員会に対して適切な指導助言をされたいと考える。

さらに、本来ならば行政で支出るべき学校の施設や備品等の購入をPTA会費から支出している学校もあるため、運営費や教育費などの予算のさらなる拡充を強く要望する。

### 3 高校入試制度・通学区域・募集定員数の見直し

- ①通学区域については、全県一区を強く要望する。若しくは、重複区域の拡大を要望する。
- ②学区外からの合格者数を第1学区の総募集定員の10%以内とするならば、第2学区の8%と同じ比率の10%への変更を要望する。
- ③第3学区の高等学校ごとの募集定員の8%を第3学区総募集定員の10%への変更を要望する。
- ④特色選抜については、県中学校校長会の要望事項を支持する。

### 4 特別支援教育の現状と課題

- ①特別支援教育コーディネーターや巡回相談員の効果的運用や適正配置を要望する。
- ②通級指導教室の充実・拡充、適正配置を要望する。
- ③個別の教育支援計画の策定を強力に進めることを要望する。
- ④特別支援教育に関する知識経験を持った教員の増員と配置に配慮し、子どもたちの個性の理解に努めることを要望する。

### 5 県教育委員会と県PTAの協力・充実

- ①PTA活動においては、教育委員会と県PTA連合会とが余裕をもったスケジュールで充実を図っていくために、計画的に緊密な調整ができるよう要望する。
- ②活動内容については、例えば幼小中の研修会ではそれぞれ成長段階に応じた内容となるよう、複数名の講師や、複数の分科会で会員が選択できるような、「会員が行きたい」「話を聞いてみたい」と思える研修会・講習会等を強く要望する。